

宇宙工学の新学科など改組を計画

九州工業大学 尾家祐二学長

国立大学法人九州工業大学（北九州市戸畑区仙水町）の新学長に4月、大学改革、教育、情報担当だった尾家祐二理事・副学長が就任した。今年度から2021年度までの第3期中期計画の概要とともに、学長就任の抱負を聞いた。

—13代目学長に就任されました。まずは抱負を聞かせてください。

尾家 本学は前身の私立明治専門学校から続く100年以上の歴史の中で、6万人以上の工学系人材を輩出した実績があります。その自信と誇りを持って、教育、研究などのポテンシャルを企業や学校などに積極的に発信していきます。

—理事・副学長時代は大学改革

を担当し、教育の国際化などにも携わったそうですね。

尾家 5年、10年先を見据えた工学系人材の在り方を考え、グローバル化を推進しました。昨年度は430人の学生が海外へと渡り、外国企業でインターシップなどを経験しました。5、6年前に比べると6倍の学生が渡航していますが、それでも全学生の1割にも達しません。そして、そのほとんどが短期留学で、中長期の留学が少ないのが現状です。今後は、学生の数に加えて、期間という質の向上も改善していきます。

一方、学部、学府合わせて250人の留学生は、全学生の3%、学部生に限ると1%未満です。学内での国際交流促進を考えると、将来的に全学生の1割を留

情報工学部の改編も計画

—今年度から21年度までの第3期中期計画が始まりました。

尾家 本学では、期中の18年度に学科再編などの改組に取り組む予定で、目玉の一つが工学部宇宙システム工学科の開設です。超小型衛星試験センターなど宇宙研究に関する施設、設備を持つ本学の特色を生かしますし、最先端技術が学べるので、宇宙のみならず、自動車や医療などの多分野への応用も期待できます。

また、産業構造の変化に伴う社会的ニーズに応えるため、ロボット工学を学習する知的システム工学科の開設や人工知能コースの設定など情報工学部の改編も計画しています。今の時代の需要に適した改組を実施することで、受験生や企業に本学が何を教えているか分かりやすくするのが狙いです。

—学生の募集はいつから。尾家 設置認可申請が正式に受理される来年度になるでしょう。入試は、工学1〜5類、情報工学1〜3類に分けて実施し、それぞれ2年進級時と2年次後期に学科に配属する予定です。学部定員は変わりませんが、学科内での定員は変更する計画です。

—そのほか、設備投資は。

尾家 建物の耐震化や、自学を促す場「ラーニングコモンズ」などの設置は第2期でほぼ完了しました。この第3期では、留学生寮や日本人と留学生の混住寮の増設、3Dプリンタなどを設けたデザイン工房の拡充などを構想していますが、予算次第でしょうね。

—財源確保など経営を取り巻く環境は厳しくなっています。

尾家 ええ。運営費交付金が、毎年1%ずつ削減されていて、財源の確保は頭を悩ませる事項です。交付金以外の予算として、新たな基金の創設や、産学連携の促進による共同研究費の獲得などで、財源の多角化を図り、安定的な財務基盤を確立します。



おいえ ゆうじ
尾家 祐二 学長

長崎県佐世保市出身。1954年生まれ。62歳。京都大学大学院工学研究科修士課程数理工学専攻了。工学博士。専門は情報通信ネットワーク「ユビキタス」ネットワーク技術の研究開発。読書、島巡り。